

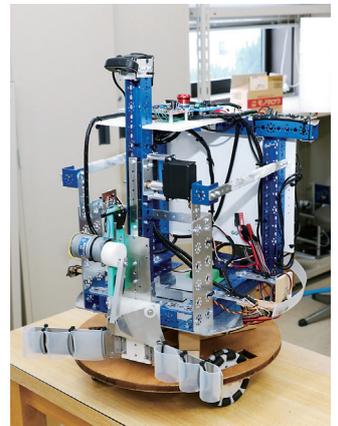
ロボットにかけた青春

新居浜工業高等専門学校

電子制御工学科

西一太^{いちた}さん、眞鍋^{まぐみ}拓巳^{たくみ}さん

vol.80

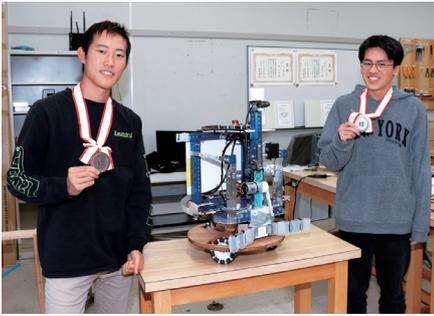


2人が製作したロボット

広告欄

8月、全国の20歳以下の若者が技能レベルを競う「若年者ものづくり競技大会」が松山市で行われ、新居浜工業高等専門学校電子制御工学科5年生の西さん、眞鍋さんがロボットソフト組込み部門で、見事銀賞を獲得しました。

同部門は、提示された課題をクリアできる移動式ロボットを製作する競技で、機械、電子、情報の複合的な技術が必要とされています。



左から西さん、眞鍋さん

す。愛媛県勢として、同部門への出場は初めてです。工程は大きく二つ。ロボットを形にする作業と、動きを指示するプログラムを組む作業です。今回の課題は、3種類のブロックを所定の位置へ運ぶというもの。クリアまでの時間や正確性を競います。

西さんはロボットの設計や構築を、眞鍋さんはプログラミングを担当しました。「お互いの得意な分野で作業を分担。学校で習ったことを応用しながら取り組みました」と西さん。

製作期間は約半年。何度も修正を重ね、完成にこぎ着けました。こだわりはタイヤを3輪にしたこと。眞鍋さんは「方向転換、旋回のしやすさが4輪にはない3輪の強み。まっすぐ進むことは少し苦手なので、直

線的な動きを上手くプログラミングで指示することが難しかったです」と振り返ります。

銀賞という結果に、「正直残念。金賞を取れるかもしれない手応えを感じていたから」と悔しさをのぞかせた2人。とはいえ、「見た目に凝っているチームや、ブロックの運び方を工夫しているチームもいた。僕たちももっと工夫できた点があったと思います」と謙虚な姿勢も忘れません。

2人は3月で卒業。就職、進学というそれぞれの道へ踏み出します。「失敗を繰り返しながら形にすることはいい経験になったし、今後の進路でも生きてくると思う」。5年間の集大成となった大会を終え、2人は晴れとした表情で語りました。